

「言葉の力」の基礎を築く読書

読書は、「言葉の力」を構成している「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」の全ての基礎を培います。

活字は音声や映像に比べて情報量が限られる分、読み手に考えることや想像することをより求めます。読書を通して養った論理的な思考力や想像力は、日常生活における物事を認識する力や判断する力などと密接に関わりながら、新たな思考や発想を生み出す源となります。



また、読書は語彙（こい）を豊かにし、感性・情緒を育みます。

私たちは文学作品を通して、自然や人生に関する事実を感じ取ったり感動したりします。その中で、他人に共感する心、美的感性、友情や家族愛といった感性や情緒を自らのものとして受け止め、理解する力を培っています。読書によって育んだ語彙や感性・情緒は、相手や場に合った言葉遣い、挨拶や依頼・感謝の言葉、互いを認め励まし合う言葉など、人間関係の形成に不可欠な「言葉の力」の基盤となります。

私は、本市の全ての小・中学校が実施している「朝読書」のより一層の充実を期待しています。

「朝読書」のポイントは、学級担任も子供たちと同様に読書を行うことにあります。かつて私の勤務校では、ある教師の提案により、「朝読書」の間中は電話と来客の対応を除き、全教職員が読書を行っていました。子供たちは、「朝読書」の開始前から読書に集中するようになりました。

子供たちに限らず、不読率（1か月に1冊も本を読まない者の割合）の改善が叫ばれています。先生方も「朝読書」の時間に、子供たちと共に本に親しんでいただきたいと思います。

ほんの少しの言葉

ノーベル生理学・医学賞受賞者・北里大学特別栄誉教授・女子美術大学名誉理事長 大村 智

人生は ほんの少しの言葉で 豊かになるか 貧しくなるか 決まる
「ありがとう」「すみません」「おめでとう」「おかげさまで」

出典：「人をつくる言葉」（大村 智著 毎日新聞出版社）

※ 言葉の大切さ、折あるごとに児童・生徒に伝えたいものです。